



いわて・みやぎ・ふくしま 便り

2020年
10月8日発行

日本生協連
組合員活動G

No. 3

2020年度「いわて・みやぎ・ふくしま便り」No.3をお送りします。朝晩は涼しくなり、日中も過ごしやすい日が続くなど、季節はすっかりと秋になりました。

7月に発生した豪雨災害の被災者へ、心を寄せる取り組みも行われています。ぜひ、ご覧ください。



こども保養プロジェクト（ココット！）週末保養のようす

ココット！週末保養のようすをご紹介します。今回は9月5日（土）～6日（日）の山形県の天童温泉 湯坊いちらくです。

1日目は山形県鶴岡市羽黒町にあるベジパレットとうもろこし巨大迷路を楽しみました。ベジパレットでは月山高原の耕作放棄地などを活用して、さまざまな人たちが農業体験や遊びを通じた交流を行っています。飼育用トウモロコシでできた巨大な迷路があります。巨大迷路に入る前に、クイズ形式で日本の食糧事情について学びました。迷路の中に4か所ある2次元コードを見つけるとポイントゲット！ゴール後に生のトウモロコシのプレゼントもありました。

2日目は山形県南陽市でぶどう狩りを楽しみました。山の斜面にあるぶどう畑でデラウェアやバッファローなど3種類を食べ比べできました♪最後に米織観光センターで昼食と買い物を楽しみました。

参加者から「原発事故によるストレスは想像以上にひどいものでした。今でも思い出すと涙が出てきます。こういった保養プロジェクトがあることをとてもありがたいと思います。今回はコロナ対策もあり大変だったと思いますが、本当にありがとうございました。だいぶリフレッシュできて、また明日から頑張れそうです。」といったアンケートをいただきました。





「いつも心はひとつ」7月豪雨被災地に支援品を送りました

7月の豪雨で被災された地域の生協で、震災を機に交流している生協くまもと、コープおおいた、エフコープ、コープぎふ、コープながの、共立社に布マスク、マスクケース、ポケットティッシュケースなど総数988点を9月初旬にお届けしました。理事をはじめとする組合員有志が心を込めて手作りした品々です。



東日本大震災から今年で10年になりますが、この間、頻りに自然災害が発生し大きな被害をもたらしています。そのたびに他人事とは思えず心を痛めてきました。さらに今は、新型コロナウイルス感染予防のため、被災された方々の寂しく辛い気持ちを癒すコミュニティの「場」を設けることも難しくなっていて、被災されたみなさんのお気持ちはいかばかりかと思いを巡らせています。心細く不安ばかりだったあの日々を支えてくれた全国のみなさんのお気持ちがありがたく思い出され、コープふくしまからも「いつも心はひとつ」とメッセージを添えました。



川俣町壁沢団地でふれあいサロンを初開催しました

川俣町の壁沢団地には、東日本大震災後によって飯舘村、川俣町山木屋地区、浪江町から約70世帯が避難しています。毎月第2水曜日にNPOみんぷくの協力でサロンを開催することになり、9月9日に川俣町壁沢集会所で初めてとなるサロンを開催しました。参加者された14人は平均年齢75歳でしたが、みなさんとっても元気で温かい雰囲気でした。初めに体温や健康チェックを行い、マスクの着用



と手指の消毒、会場内の換気を周知しました。笑いヨガを楽しんでくださり、たくさんの笑顔が見られました。参加者からは、「身体を動かして楽しみたい！」との要望がありましたので、来月は棒体操を予定しました。最後に「楽しかったよ!」「こんなに笑ったの久しぶりだ」「来月も楽しみだ」との声をいただきました。サロンでは富山県生協から頂いた銘菓を紹介し、お渡ししました。



令和2年7月豪雨災害支援ボランティアに取り組みました

令和2年7月豪雨で各地に大きな被害が出たことを受け、みやぎ生協では東日本大震災以降、多くの支援や交流をいただいている各地の生協のみなさんへの支援として、さまざまな製作ボランティアに取り組みました。「生協くまもと」と「生協ひろしま」のみなさんへは、被災された方や被災者を支援している方・配達などに尽力している生協職員の方々が、暑さの中で少しでも涼しく作業ができるようにと、「ひんやりタオル（首元に保冷剤を入れて使用するタオル）」を作りました。制作ボランティアにのべ70人以上が参加し、子どもと一緒に取り組む方もいました。ひとつひとつにメッセージを書き添え、合

計 1,120 枚を作ることができ、それぞれの生協へ各 560 枚をお送りしました。そのほかにも、過去に支援をいただき交流のある 5 生協へメッセージやマスクケースなどを作ってお送りしました。

被災された方々が、一日も早く、元のくらしに戻れることをお祈り申し上げます。

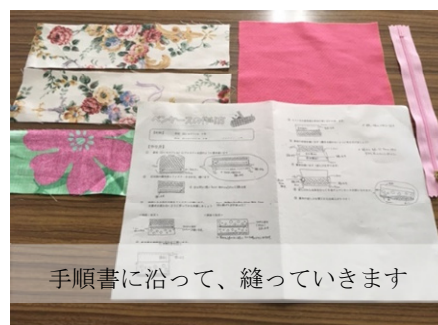


ふれあいサロン用手芸キット作りを継続し、地域へ提供しました

いわて生協では、沿岸被災地の「ふれあいサロン」は終了しましたが、「沿岸までは支援に行けないけれど、自分にできる事で支援したい」という思いで始まった「ふれあいサロン手芸キット作り」を継続しています。

自主的に活動している沿岸の団体やグループ、台風被害のあった岩泉町社協やNPOにキットを提供し、集まったみなさんの手芸に活用いただいています。このキットは全国の生協から提供いただいたり、こ〜ぷ委員会やくらぶで作成に取り組んだりして、キットのメニューも100アイテムを超えるまでになりました。

「準備の手間が省け、集まりの参加者から大変よろこばれている」と好評です。陸前高田市の「地域サポート会議」でその話をしたのをきっかけに、社協主催のサロンにもキットを提供することになりました。



手芸キットは、その場ですぐに組み立てたり、縫ったり出来るように、あらかじめパーツを準備したもので、手順書と一緒に一人分ずつ袋詰めしています。



5回目の「被災地支援活動助成金」募集を開始

全国のみなさまにご協力いただいた「地域・くらし復興応援募金」を財源に助成をしている「いわて生協被災地支援活動助成金」の応募を10月1日から開始しました。被災地の復興に貢献する活動をしている県内の団体を対象に、1団体30万円上限、総額300万円以内で活動費用を助成するものです。これまでにのべ48団体に1,048万円を助成し、復興支援に取り組む団体を支えてきました。

団体の活動紹介もしたいところですが、今年はコロナ禍で予定していた活動ができてない団体も多く、次回以降で状況をお知らせしたいと思います。

発行

日本生協連 社会・地域活動推進部 組合員活動グループ
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

小池